

## 抑制ピーマンにおける天敵サバクツヤコバチによるタバココナジラミの防除



茨城県農業総合センター園芸研究所

鉄骨ハウスを用いた抑制ピーマンにおいて、難防除害虫であるタバココナジラミに対し、天敵サバクツヤコバチを、定植2～3週間後から1週間間隔で3回程度放飼することにより、高い防除効果が得られます。

### サバクツヤコバチの放飼適期

サバクツヤコバチは、タバココナジラミの2～3齢幼虫に産卵します。鉄骨ハウスを用いた抑制ピーマンにおけるサバクツヤコバチの放飼開始時期は、タバココナジラミの2～3齢幼虫が現れる定植2～3週間後からになります。また、定植1ヶ月以降からの放飼では、タバココナジラミの生息数が多くなりすぎて防除効果が得られなくなる場合があります。

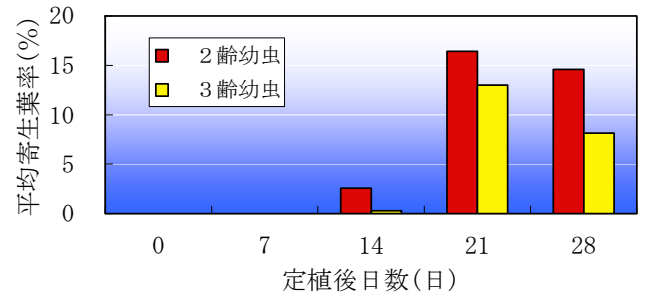


図1 鉄骨ハウスを用いた抑制ピーマンの生育初期におけるタバココナジラミ2～3齢幼虫の発生推移

### サバクツヤコバチの防除効果

鉄骨ハウスを用いた現地抑制ピーマンにおいて、定植3週間後から1週間間隔で3回サバクツヤコバチを放飼したところ、サバクツヤコバチがタバココナジラミに寄生・定着し、防除効果が確認されました。これにより、タバココナジラミに対する定植後の薬剤防除を削減できました。

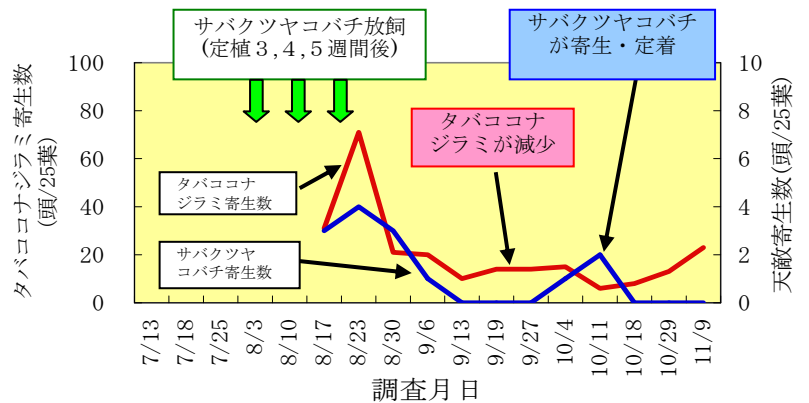


図2 サバクツヤコバチを放飼した抑制ピーマン圃場におけるタバココナジラミおよびサバクツヤコバチの発生推移

### サバクツヤコバチの利用モデル

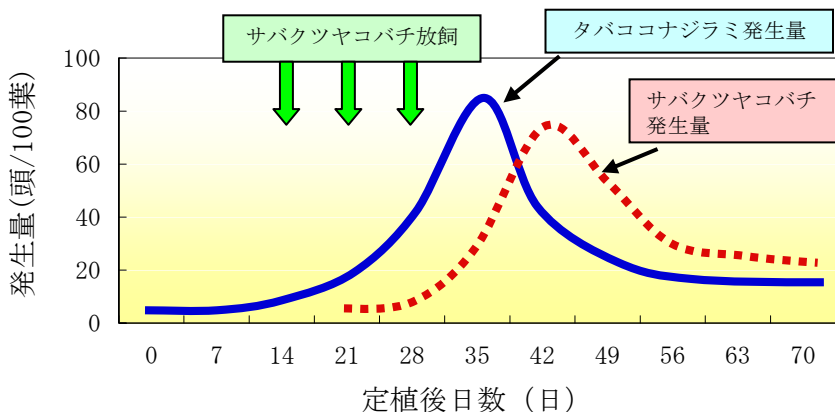


図3 抑制ピーマンにおけるサバクツヤコバチの利用モデル

サバクツヤコバチは、成虫の生存日数が10日間程度で、1日の産卵数が3～5個と少なく、農薬の影響を強く受けます。これらのことを考慮すると、抑制ピーマンにおいては、定植2～3週間後から1週間間隔で3回程度放飼する必要があります。原則として殺虫剤は使用しません。